

令和5年度 城西中学校 学校評価

		自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	活動計画	評価指標	評価	学校関係者の意見	
未来を拓く学び	<ul style="list-style-type: none"> 「学ぶ」の楽しさを体得できる授業 教育DX推進事業によるタブレットやICT活用の推進 主体的・対話的で深い学びにつながる授業 発達段階に応じた生徒の個性やニーズに届くキャリア教育 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意欲が高まるような課題や問題を設定し、わかりやすい授業の組立を工夫する。 「本時の目標・ねらい」「学習の流れ」「振り返り」を意識した授業を行う。 学習の過程において、自分の考えや思いを他者に表現する場面を取り入れ、対話的な学びを深める。 毎日の家庭学習の時間設定や取組が、効果的な主体的学びにつながることを知らせる。 1人1台のタブレット端末を活用し、Metamoji ClassroomやMicrosoftteams等を用いて、効果的な学習指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のわかりやすさを肯定する生徒が85%以上である。 目標等の提示・ICTの活用等の授業改善を行っている教師が95%以上である。 自分の考えを文章で表したり、誰かに伝えたりすることができたと回答する生徒が85%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「先生はわかりやすく授業をしている」に対する肯定的な回答をした生徒の割合は88.5%で昨年と比較して横ばいの結果であった。昨年に引き続き、高い水準を維持していると考えられる。 「目標の提示・ICTの活用・グループ学習等の授業改善を行っている」に対する肯定的な回答をした教員の割合は96.6%であった。重点目標に迫るための取組の成果がわかりやすい授業につながっていると考えられる。 「自分の考えを文章で表現したり、誰かに伝えたりすることができた」と回答した生徒の割合は73.5%で昨年度より4.4%上昇しているが、85%以上ではなかった。授業改善として対話的な学びの視点が十分ではなかったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果の数字だけにとらわれず、コロナ禍から進んだことを誇りに思っていないんじゃないかと思う。気を抜かず教育活動に取り組んで欲しい。 社会全体で発達障がいのお子さんも増えていると聞く。子どもの人生のトータルを見て関わっていかねばならない。 人間関係がうまくいけば、縦割りの関係を築くことができる。 「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒(83.0%)がこれだけいるのが十分である。しかし、家庭学習の習慣が低い。学校・家庭共に手立てが必要ではないだろうか。 「学校は楽しく行っているけれど長寿命化工事の関係で理科室が使えず楽しみにしている実験ができず悲しい。」と、いう保護者の意見もある。 「先生が適切なアドバイスをくれる」と答えた生徒(87.0%)に対し、「子どもが困った事や悩みを先生に相談している」と答えた保護者(51.2%)が低いのは、教師に話した生徒の悩みや子どもの声が保護者に届いていないのではないだろうか。 地域とのつながりのボランティア参加については、ボランティア証明書一つのモチベーションになるのでは。証明は、高校生の場合、大学進学につながる。参加すれば生徒個々の心に残るが、今は、何かつながらなければ参加しない。・交通マナーについては、冬場になり受験が迫って睡眠時間が短くなっている影響もあるのかフラフラ運転がある。注意喚起が必要。正門前は交通量も多い。ヘルメットを自転車置き場から着用する呼びかけで交通もスムーズになるだろう。 城西中学校のみならず学校に行きづらい生徒が社会的にも増加している。学校だけの問題ではなく、皆で考えていく社会問題である。 	<p>わかりやすい授業については、生徒の肯定的な意見は高い(88.5%)が、教師の授業改善の取組(96.6%)に比べて低い結果となっている。教師の取組が生徒の受け止めと乖離しないよう引き続き、授業改善に努める必要がある。とくに、対話的な学びの視点を意識した授業改善に取り組む必要がある。また、家庭学習に取り組んでいる生徒の割合が前年度より7%低い。家庭学習の充実により学力の向上を目指した取組を行うことが今後の課題である。</p> <p>「自分の将来について考えている」生徒が、目標数値である80%以上を目標に、子どもたちの発達段階や興味・関心に即した職業観・勤労観を育み、未来に夢を抱くことにつながる講演やワークショップ等の計画・実施を検討したい。1年生からの積み重ねの大切さを考えていきたい。</p> <p>「学校のルールを守って生活している」と回答した生徒が97.0%に上っており、目標値を達成している。今後も、油断することなく、生徒と共にいじめや暴力のない安心安全な学校づくりを推進し、さまざまな実践を続けたい。</p> <p>あいさつに関する項目では、まだまだ課題が残る。来年度に於て、生徒会を中心とした啓発活動を行い、教職員が手本となり、あいさつを実践するなど、学校全体で課題に取り組むたい。</p> <p>今後も、引き継ぎシートやチェックシート等を活用し、生徒理解を深め、個々の生徒の支援に取り組む。日頃から生徒に温かい声かけをするなど、生徒、保護者と良い人間関係を築き、それぞれの思いに寄り添いながら適切な支援をめざす。教師間の情報交換や研修等を大切にしたい。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 働くことの意義や職業についての理解を深め、職業観・勤労観を育てるために、進路や職業についての学習や講演会などを通して、自分の将来を見つめることができる教育を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 働くことや職業に関心を持ち、自分の進路や将来について意欲的に考える生徒が80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の将来について考えている」生徒が、全体では75.1%であり目標には届かなかったが、学年が上がるとつれ数値は高くなり、3年では自分の進路への関心の高まりが見られる。各学年でのキャリア発達(勤労観や職業観など)に合わせた教育の継続が大切である。 		
生徒理解・生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 校訓の精神に基づいた日常生活指導 自立するための人間力(あいさつ・時間等)の育成 生徒・保護者・関係機関との連携による個別最適な対応 個性・特性を伸ばす機会の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態把握に努め、心の悩み、いじめの早期発見・早期解決に努める。教育活動全体において、学校や社会のルールを遵守する姿勢を育み、安心安全な学校づくりを目指す。 関係機関と連携し、生徒の未来につながる広い視野をもった生徒指導を実践する。結果、「力行」の精神を身につけ学ぶ、生きる力を備えた生徒の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校のルールを守って生活できていると答える生徒、校訓の教えを意識して積極的にあいさつをするようにしていると答える生徒がそれぞれ95%以上である。 いじめや暴力がなく、みんなが楽しく過ごせる学校づくりに協力できていると答える生徒が90%である。 いじめや暴力がない楽しい学校作りができていると答える保護者が80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校のルールを守って生活している」と回答した生徒は97.0%となり目標を達成できた。一方、積極的なあいさつに関しては80.6%にとどまった。人間関係の基礎となり、学校生活を円滑にするあいさつの指導を充実させることに継続的に取り組むたい。 生徒が91.9%、保護者が80.6%の割合で、いじめや暴力のない学校づくりに対して肯定的な評価になっている。否定的回答こそ弱者の声と捉え、改善点を見つけ、いじめを許さない学校を目指し、学校一丸となって取り組んでいきたい。 「先生が適切なアドバイスをくれる」と答えた生徒は、87.0%で、目標を達成した。特に3年生では90%を超えており、進路を共に考え、寄り添う活動が実っている。「子どもが困った事や悩みを先生に相談している」と答えた保護者は、51.2%だった。保護者に見える取組が必要である。 	<p>「学校のルールを守って生活している」と回答した生徒が97.0%に上っており、目標値を達成している。今後も、油断することなく、生徒と共にいじめや暴力のない安心安全な学校づくりを推進し、さまざまな実践を続けたい。</p> <p>あいさつに関する項目では、まだまだ課題が残る。来年度に於て、生徒会を中心とした啓発活動を行い、教職員が手本となり、あいさつを実践するなど、学校全体で課題に取り組むたい。</p> <p>今後も、引き継ぎシートやチェックシート等を活用し、生徒理解を深め、個々の生徒の支援に取り組む。日頃から生徒に温かい声かけをするなど、生徒、保護者と良い人間関係を築き、それぞれの思いに寄り添いながら適切な支援をめざす。教師間の情報交換や研修等を大切にしたい。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> 配慮の必要な生徒に対して、引き継ぎシートやチェックシート等を活用し、家庭との連携を深める。学年でも共通理解をはかり、支援計画等を作成・活用し、支援を行う。さらに、職員会等で他の教職員とも共通理解をはかり、全教職員で支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生が学校生活の中で困ったことやわからないことに適切なアドバイスをしてくれると答える生徒が80%以上である。 子どもが困ったことや悩みを先生に相談していると答える保護者が80%以上である。 			<ul style="list-style-type: none"> 「先生が適切なアドバイスをくれる」と答えた生徒は、87.0%で、目標を達成した。特に3年生では90%を超えており、進路を共に考え、寄り添う活動が実っている。「子どもが困った事や悩みを先生に相談している」と答えた保護者は、51.2%だった。保護者に見える取組が必要である。
豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> いじめ・差別を見逃さず、共に解決するための取組 行事などを通じての個性を認め合う仲間作り 情報モラル教育の推進 道徳科授業の改善と評価の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態をしっかり把握し、一人ひとりがそれぞれの悩みや願いを出し合え大切にされる学級集団作りを通して、仲間意識を育てる。 清掃活動や環境美化に積極的に取り組む姿勢を育てる。 さまざまな人権問題について正しい情報を正しく認識し、差別を鋭く見抜き、差別解消に向かって取り組んでいく意欲と実践力を育んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 困ったときに、先生が自分の悩みを聞いてくれたり相談に乗ってくれたりすると、答える生徒が80%以上である。 クラスの居心地がよいと答える生徒が80%以上である。 生徒、教職員のみならず来校者からも環境美化整備がされていると認められる。 道徳の授業や人権学習に前向きに取り組めたと答える生徒が85%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生からの適切なアドバイスについて満足している生徒は87.0%となった。学校に行くのが楽しいと感じている生徒は83.0%となった。保護者や子どもたちと悩みを共有し、寄り添える関係づくりに今後も努め、学校が居場所となるようにしたい。 朝の清掃ボランティアへの参加生徒が増え、秋以降は毎回20人以上が活動に参加している。 「道徳の授業や人権学習において自分の生活を振り返ったり、自分の考えや人の意見と向き合ったりして、前向きに取り組んだ」と回答している生徒が、全体で87.4%だった。学校全体で90%を目指して今後も取り組んでいく。 	<p>生徒の支援について共通理解を図る教師間の情報交換や研修の機会を大切にしたい。日頃から生徒に温かい声かけをし、教職員の見守り体制を強化していく。</p> <p>作業を通して、生徒の規範意識や勤労奉仕の精神、思いやりを育み、生徒と教師とのよい関係性を高めていくよう努める。</p> <p>生徒にとって所属感の高い学級経営を目指すとともに、授業の中で互いの意見や考え方を認め合う態度の育成を図る。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> 防災・減災についての意識・知識を高め、災害時に適切な行動を選択できるよう、避難訓練を年3回以上実施するとともに、教科等の中でも自然災害についての学習指導を行う。 登下校時の交通安全に対する意識を高め、交通マナーの向上に努める。 事故件数やマナー違反の事例を適宜周知し、積極的に生徒・教職員の安全意識の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車通学生のヘルメット着用率が100%である。 学校敷地内では自転車を降りて押している。 安全意識を向上させることで、交通事故件数の減少に努める。 交通ルールを守って登下校できていると答える生徒が95%以上である。 			<ul style="list-style-type: none"> 避難場所や避難の仕方を理解している生徒が85.7%であった。学年別に見ると1年生と2年生は昨年度より、1.6～2.2%増加し、3年生は0.7%減少した。学校全体で90%を達成することに向けて継続していく必要がある。 「交通ルールを守って登下校している」と答えた生徒が95.7%であった。しかし、ヘルメット着用率100%は達成できていない。また、並進などにより車や歩行者への迷惑運転もみられた。交通事故の発生件数も目立った減少には至っていない。命を守るため交通ルールの遵守を啓発し続けていく。
安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 非常時対応の徹底 感染症予防等を中心に据えて健康・安全への意識向上 交通安全指導への継続的な指導と環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断結果や生活習慣に関するアンケート結果を活用した保健指導を行う。 教職員間に加え学校医、SC等とも連携し、生徒自身が心身の健康保持や生活習慣改善に向けて、積極的に取り組む態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> よい生活習慣を身につけようとする生徒が85%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「良い生活習慣を身につけようとする努力している」生徒は87.4%であり、昨年度よりも良い結果であった。しかし、生活習慣アンケートの結果は、1学期よりも2学期の結果が悪くなる傾向にあり、繰り返し生活習慣に関する指導を行っていく必要がある。 「食べ物や大事にし、感謝の気持ちをもっている」生徒が90.4%で、目標には届かなかった。一方、「家庭で食生活に気をつけている」保護者は92.5%おり、食への関心の高さが伺える。今後も学校と家庭で連携し、食の大切について啓発をしていきたい。 	<p>養護・体育・給食・部活動等が連携し、様々な機会を繰り返し生活習慣に関する啓発を行っていく。また、HPや保健だより等を通じて家庭の協力も得られるようにする。さらに、学校保健委員会等の機会を活用し、保護者の意見も反映させながら健康教育をすすめていく。</p> <p>給食や授業、お弁当の日等を通して、学校全体で食に関する指導の充実を図りたい。食育だよりや学校ホームページを用いて家庭への啓発も続けたい。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> 「お弁当の日」や給食の時間、各教科の食に関する指導を通して、心身の健康を保持増進しようとする態度の育成と食物を大事にし感謝する心を育てる。 食物を大事にし、感謝の気持ちをもつ生徒が95%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の活動風景や活動予定等を配布物やホームページを通してわかりやすく伝える。 地域との連携に努め地域行事に積極的に参加する。 			<ul style="list-style-type: none"> 「学校の様子が変わる」と84.1%の保護者からの回答を得た。本年度も、地域ボランティアに、450名の生徒が参加しており、目標を達成することができた。今後も学校の様子をわかりやすく伝えることや地域と連携した活動に参加することを心掛けたい。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページ等を活用した学校情報の提供と教育活動の発信 地域や社会の活動への参画 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の活動風景や活動予定等を配布物やホームページを通してわかりやすく伝える。 地域との連携に努め地域行事に積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校の様子が変わる」と84.1%の保護者からの回答を得た。本年度も、地域ボランティアに、450名の生徒が参加しており、目標を達成することができた。今後も学校の様子をわかりやすく伝えることや地域と連携した活動に参加することを心掛けたい。 	<p>情報モラルに留意しながら、効果的な情報発信の場として、ホームページを有効に活用していく。学校行事などを通し、城西中学校の教育活動の様子を公開し、地域と共に歩む、開かれた学校づくりに今後も取り組んでいく。</p>		